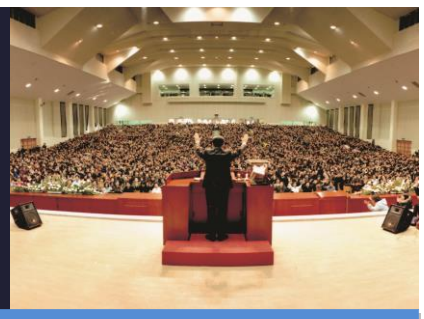
第 2017-33 号

恵みと真理のニュース



2017 年 8 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

41 歳に遅い歳に教師の夢を叶うように大きい恵みを与えてくださった神様に感謝します

私はイエスキリストを信じ神様を畏れ委ねる信仰生活をしてから最近驚くな神様の恵みを体験しました。41歳遅い歳に教師任用試験に合格して教師として発令を受けたことです。人々から頭が良い。頑張って勉強したよね。と考えると思いますが、事実は全く違います。大学卒業する20代の若い人々と競争するには本当に足りない者でむしろいろいろな弱点が多いです。頭の良くなくて覚えたらする忘れるほどです。

しかし、結婚して子供を産んで家で家事だけするうちに若い時に勉強した専攻の知識を忘れていました。教師任用試験を準備する間も子供を育つため他の受験生より勉強する時間も足りない状況でした。また、学院を通うことが出来なくてインタネットの講義を聴き勉強しました。当然どんな勉強の集まりも参加することが出来ませんでした。それで勉強しながら知らない問題があると聞く事も出来なくて一人で解決するため戦々恐々しました。とても寂しくて勉強するときに大変でした。

私は自尊感と自信も足りなくていつも否定的な面が強かったです。このような性格と過去若い時に任用試験に失敗した経験があったので再び遅い歳に任用試験に挑戦するのは易しい決断ではなかったです。このように弱くて足りない全身全力試験の準備をすることが出来なかった私が今回任用試験に挑戦してまた合格したのは神様の恵みではなくては説明することが出来ません。過去の私と現在の私が確かに変わったのがあります。それは今、真にイエス様を信じて神様を委ねて仰ぐことです。これが私の夢がかなえられた力の元です。

私は篤実な信仰を持っている母の手に連れられ小学生の時から教会に通いました。しかし、習慣的に教会に行くのでした。礼拝を捧げるより聖書御言葉を習うことより教会で友達と会うのが好きでした。それで思春期が来た時から中学生、高校生の頃は全く教会に行かなかったです。大学生になって仲良い友達をついてまもなくその友達が通う教会に行きましたが、その時も同じく友達が良くて教会の先輩たちが良くて教会に通いました。そうしながらまた、教会を離れて神様を離れて忘れて暮らしました。旦那に出会って結婚してスワンに住むようになりました。結婚する前まで遠いプサンで住んでいた私としては慣れてない環境に適用するのも難しかったです。友達や親戚や知り合い一人もいなくて時間が経つほどもっと寂しくて生活が苦しかったです。さらに子供を産んでまもなく旦那が失業もしました。その期間が考えたより長くなって経済的に難しさが重なりました。心を置くところがなくてとても寂しくて生活が苦しい時にふっと教会が思いだしました。母が真に幸せに思っていた教会、真な信仰はなかったですが友達と先輩達に会って楽しく付き合った教会が思いだしました。何よりも神様の助けが切に必要でした。神様に切に祈りたかったです。ちょうど家の近くに恵みと真理教会がありました。初めは礼拝と教会生活に適応するのが難しかったです。そんな私を教会に会った区域長がよく導いてくださったて様々な事も助けてくださいました。

初めは主日礼拝だけ捧げて区域礼拝も参席しながら私の信仰が成長しました。牧師と伝道士がよく家に訪問してくださり、説教と祈ってくださいました。特に礼拝中心、教会中心の生活をするなかで区域礼拝が大きい助けになりました。もし、私が主日礼拝だけ参席したら長く信仰生活をしなかったはずです。区域で聖徒と共に御言葉を黙想して祈って交際しながら信仰が出来るように礼拝と集いを通して多くの励ましを受けました。

そして区域長の勧めで教会の平信徒聖書学校に入って聖書を勉強しました。初めはしたくなかったですが、従順が祭祀より良いという御言葉が思い出して区域長の勧めに従順しました。その結果、聖書御言葉を悟って知るようになって神霊な知識を得るようになりました。その後牧師の説教を聴くとよく理解できて大きい恵みになり正しい信仰生活をすることが出来ました。

久しぶりに試験を準備しながらある日、母にこのように話しました。"お母さん、私が試験に合格するより私家族みんながイエス様を信じて信仰生活をよくするのが私の一番の希望だよ。" それほど私は信仰生活で真の喜びと幸せを知るようにしてくださった神様に感謝します。神様の御言葉と聖霊の働きを通して私を恵みと真理で満たしてくださり、私に神様の愛し仕えるのが一番重要な人生の理由であり目的になるようにしてくださいました。何よりも神様の栄光を求めながら生きるように私を変化してくださいました。またその信仰によって神様が私に合格の喜びを与えてくださったと思います。団順に私の個人の希望ではなくてその職分を通して福音を伝えて神様の栄光を表すため任用試験を準備して祈って試験を受けたとき神様が奇跡的な助けを与えてくださいました。試験を準備しながら最善を尽くして努力しましたが、私の実力と様々な状況で見る時合格する自信もなかったです。大変で諦めたい時、酷く座絶感になるときは神様の助けを願いながら求めました。1次試験で過ちで解けなかった問題もありましたが、神様の摂理と助けを期待しながら2次試験を準備しました。1次試験に合格することが出来るのか不安感がなくなるように神様に祈りました。そして1次試験に合格しました。助けてくださった神様の恵みです。 次の試験である授業実演面接、グループインタビューも難しい試験でした。不安と恐れがあって時間が近づくと心配と緊張で日々苦しかったです。これを乗り越えて大胆な心を得るように私は毎日" 恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。（イザヤ書41：10）黙想し神様に祈りました。そして神様の恵みでついに最終の合格の喜びを享受して教師として献身しています。

今考えてみると任用試験を受けると決断して日々受験生活をしてまた、試験を受けるその当日、いつも神様に私と共におられたのを深く悟りました。足りなくて弱い私を愛してくださり大きい恵みと助けを与えてくださった神様に感謝します。イエス様の心で学生達を愛し教えながら学院の福音化に献身する教師になるのを念を押してすべての栄光を神様に捧げます。ハレルヤ！

［信仰コラム］

正常的なキリスト人

"...あなたがたは、イエス.キリストを見たことはないが、彼を愛している。現在、見てはいけないけれども、信じて、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれている..."(ペテロの第二の手紙)

キリスト人には並外れの特性があります。本文に記録されているその特性について調べてみましょう。万が一、このような特性がないとその人は正常的なキリスト人ではありません。

第一、正常的なキリスト人はイエス様を見たことがなくても信じます。

神様が御自分の姿を人生達に見せられるとしたら福音伝道者が励んで伝道する必要がないでしょう。しかし、実はそうではありません。昔イスラエルの民は神様が降臨なさい直接言われることを経験しました。なのにもすぐに神様が禁じられた偶像を造り敬拝しました。イスラエルの民は 40 年間を広野を行進しながら神様が施される奇異で驚くべきな能力を体験しました。なのにも大多数のイスラエル民は神様を疑って不順従しました。

イエス様の復活を疑ったトマスにイエス様が"あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである"と言われました。乙女の体に聖霊によって産まれ人の体を被られてこの世にお越しになったイエス様を皆さんは見たことがありません。十字架につけられて血潮を流し死なれること、お墓に葬られることも見たことがありません。復活なさった姿、天に昇られる姿も見たことありません。しかし、皆さんはイエス様を信じています。イエス様を見たことはないが信じること、これが正常的なキリスト人の特性であります。

第二、正常的なキリスト人はイエス様を見たことはないが愛します。

自己中心的な愛、利己的な愛はイエス様に対する愛としては合いません。イエス様を愛するそれが生活の究極的な目的になり、最高の価値にならなければなりません。イエス様を愛するから受ける逼迫と冷遇、損失と不当な待遇を喜んで耐えるべきです。ペテロは晩年にローマに行って福音を伝えたが、ネロ皇帝の迫害の時に十字架刑を受けたがペテロ自分の要請によって十字架に逆さまになってつけられ殉教したそうです。彼はイエス様の弟子としてお呼びを受け 3 年以上をイエス様の教えを直接に受け、イエス様が行われる数多くの奇跡を目撃して体験し、復活なさったイエス様とイエス様が昇天なさる場面もみました。従って、ペテロがイエス様を死ぬまでも愛したことがとても当たり前に扱われます。しかし、皆さんはイエス様を直接見たことがないのにも関わらずイエス様を愛するというのは驚くべきなことです。誠に神様の選びを受けた人だけが可能なことです。イエス様を見たことはないが愛することが正常的なキリスト人の特性です。

第三、正常的なキリスト人はイエス様を見たこともないが語られない光栄な楽しみで喜びます。

キリストを信じる理由の中で魂の救いより他のことを先立てする人は正常的なキリスト人ではありません。このような人が福音を混雑にさせます。キリスト人の心霊の中に湧き出る喜びは魂を救われたことがいかに大きな福かを悟る深さに比例して表れます。魂が救われた事実による楽しみより大きな楽しみはありません。イエス様を見たこともないが魂の救いを信じて語られない光栄な楽しみで喜ぶことが正常的なキリスト人の特性です。

第四、正常的なキリスト人は様々な試しによって心配するとしてもしばらくの間であり却って、大きく喜ぶようになります。

心配の原因は経済的な問題、家族の問題、対人関係、任務遂行、肉親の健康問題等多様です。心配によって憂鬱で悲しむ聖徒を信仰がないと判断することは度が過ぎた速断です。その理由はその聖徒が心配を克服して"却って大きく喜ぶ"姿を見せてくれるはずだからです。キリスト人には心配を素早く消化することができる理由があります。第一の理由は、生まれ変わった人であるからです。生まれ変わった人は様々な試しを受けてしばらくの間は心配するとしても直ちに喜びを回復します。第二の理由は、天にある業があるからです。第三の理由は、末世に現われた救いを得ることができるよう能力で保護を受けているからです。第四の理由は、様々な試しも有益になるよう行われてくださるからです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神様が与えられたその道

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は誰でもあらゆるを選んで生きます。 人は物事の選択だけでなく、人生観や思想と信仰を選択します。観念や信仰は、人々がどのような方向と目的に向かって進むようにする道のようなものです。したがって、路線の選択です。道を間違えば努力と苦労は無駄です。人が選択しなければならない最も重要な選択は、信仰の路線を選択します。信仰の路線選択は、その影響と結果がこの世だけでなく、来世の生活にまで及びます。今日の本文には、「 もし、あなたの神、主の戒めを守り、その道を歩むならば、主は誓われたようにあなたを立てて、その聖なる民とされるであろう。 ″（ 申命記 28：9）と記録された。神はあなたの人生が必ず行くべき道を定め、「その道を行いなさい。」と言われました。

今日はいくつかの種類の道について見ながら、神が定められた、その道は何なのかを見てみましょう。 宗教に関連した四つの種類の路線です。

第一は、無神論の 路線です。

無神論者は、神は存在しないと主張します 無神論の中に 共産主義者があります 共産主義者は公正で真実で罪人をさばかれる神の存在を否定します。これらの共産主義者が革命を通じて国家と社会を支配するようになると、国民がどのような状況になるかを通ってきた歴史が教訓しています。私たちは、北朝鮮が共産化された後に、これまでいくつかの状況に置かれたのかを見てみると、共産主義の弊害を低減します。無神論に基づいた哲学や思想やシステムは、本質的に誤った路線です。

第二は、不可知論の路線があります。

不可知論は有限な人間は無限の存在について認識することができないので、神の存在について肯定も否定もできないという主張です。不可知論者の言い訳が無理な主張であることを明らかに露出さ言葉が ローマ人への手紙 1 章 18 節から 20 節に記録されています。
「 神の怒りは、不義をもって真理をはばもうとする人間のあらゆる不信心と不義とに対して、天から啓示される。 なぜなら、神について知りうる事がらは、彼らには明らかであり、神がそれを彼らに明らかにされたのである。神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない。」としました

第三には、偶像宗教の路線があります。

聖書で偶像と呼んだのは 木、石、鉄器など自然界に存在するその何でも作られた形状を信仰の対象とするものです。人も偶像になることがあります。天地を創造され、イエス・キリストによって、罪人を救われる神のほか信仰対象とするすべてのものが偶像です。

人は、神が明らかにされた範囲内で、神がなさることを知ることができます。そして、神は人が必ず知っておくべきことは十分に明らかにされました。ところが、堕落した性質を持つ人間は、神の啓示には関心がなく、人間自らの努力で神を探して、永遠の命の道を探そうとします。これにより多くの人が被造物を創造主で仕えています。人の脳から思い出した対象を、神で仕えています。このすべてが偶像崇拝の路線です。

第四は、キリスト教の路線があります。

人類の歴史を通じて数多くの宗教が生まれてまた なくなてしました。キリスト教は一般の宗教のわくの中に入れることができるではありません。神の啓示によったからです。神はどんな方か 人間はどんな存在なのかについては、神の啓示がなければ知ることができません。天地創造と人類の歴史の未来にも、神の啓示がなければ知ることができません。罪人が救われる道も、神の啓示がなければ知ることができません。その啓示が、聖書に記録されています。キリスト教は人をイエス・キリストに導いてくれる路線です。

ところが、クリスチャンであっても、実態はクリスチャンではない人がいます。信仰路線を五種類に分け説明します。

第一は、律法主義路線があります。

律法主義は律法を守ることによって救われるという信仰路線です。イエス様は律法学者とパリサイ人たちに向かって激しく叱りました。律法を守ろうと努力するそれらに向かって、イエス様が厳しくするように責めはなぜですか？律法を守って救いを得ようとすることで、救いの恵みと真理を歪曲されるようにするためです。律法の役割は、人間の罪を露出する一方、人間の行為には、義とされることがないという事実を知ることで、最終的にはイエス・キリストに進むようにすることです。

第二は、イエス・キリストを信じる義されて、罪からの自由を得たので、これからはどのように行っても天国に行くと主張する信仰路線があります。

イエス・キリストを信じて受け入れた人の魂は大きな変化が起こります。イエスの血潮で罪の洗いされて、新しい命を得て、神の子として生まれかわるようになります。このような変化を受けると人生観が変わって人生の目標が異なります。エペソ人への手紙 5 章 8 節と 9 節に記録されることを「あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあって光となっている。光の子らしく歩きなさい－ 光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである－ 」としました。 生まれ変わった人は、光の子らしく行うしようと励むされ、光の実を結ばなければ悔い改め、聖霊の助けを求めるようになります。イエス・キリストを信じて義されて、罪からの自由を得るので、これからはどのように行っても天国に行くと主張する人は、新しく生まれなかったことを自ら証明するものです。これは非常に誤った信仰路線です。

第三には、イエス・キリストを信じる信仰の上に律法を行なう行ないが補充する必要が救われると主張する信仰路線があります。

キリスト教の信仰における信仰と行ないという二つの単語は非常に重要な意味を持ちます。

ローマ人への手紙では、人間の行為には、義されず、救いを得ないとしました。ところが ヤコブの手紙は行ないのない信仰は死んだ信仰であり、そのような信仰では義されたのを得ないとしました。ローマ人への手紙とヤコブの手紙は相反する教義を主張しているように見えますが、全くそうではありません。ローマ人への手紙 3 章 23 節に記録された、「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており」という言葉は、イエス・キリストのあがないの恵みをわき法を行い、義なろうとするのは無駄という意味です。ヤコブの手紙では、行いのない信仰は無駄であり、死んだ信仰としました。その例に挙げた人がラハブです 遊女ラハブは、エリコの城で酒屋を運営しながら、人々の話を聞いて、イスラエル人が仕える神を信じるようになりました。ラハブは、イスラエル人の斥候を隠してまた脱出するようにしました。そして斥候たちと約束をしました。「 われわれがこの地に討ち入る時、わたしたちをつりおろした窓に、この赤い糸のひもを結びつけ、またあなたの父母、兄弟、およびあなたの父の家族をみなあなたの家に集めなさい 」神への信仰によってラハブは命を掲げ、イスラエル人の斥候を隠してまた脱出させた窓に赤いひもを結び、親兄弟とその家族をも呼び集めました。ラハブのこのような行動が、彼女の信仰を補充して完全にしたものではなく、ラハブの完全な信仰がそのような行動をするようにしたものです。イエス・キリストを信じる信仰に律法を行なう行ないの補充する必要が救われると主張する信仰路線は間違っている

第四は、 混合主義 の信仰路線があります。

使徒たちが活動してい時代から混合主義の信仰の路線がありました。その事実は、次のように記録されています。「 しかし、わたしたちは、多くの人のように神の言を売物にせず、真心をこめて、神につかわされた者として神のみまえで、キリストにあって語るのである 」（ コリント人への第二の手紙 2:17）今日では、宗教と一致する、宗教多元化の波が全世界に広がっています。
聖書は神の啓示で記録された神の言葉であるという事実を認めながらも、一方では、他の宗教の経典もそうだと信じている人がいます。イエス・キリストは救世主であると信じながら、キリストがたくさんあると信じている人がいます。これらの信仰路線を追う人は真のクリスチャンではありません。

第五は、聖書の示すとおり信じ行なう信仰路線があります。

この信仰路線で行なう人は、次のように信じて行動します。聖書は聖霊の感動された人たちが神から受けて話すものであり、私たちの信仰と行為の絶対的な基準であることをしっかりと考えている。イエス・キリストのあがないの恵みを受け義されて救い得ることを信じている。救いを得るために律法を守って行なうのではなく、救いを得たので、神の律法の定めを守り行なうことを努め生きていきます。神を礼拝し、福音を宣べ伝え、教会のために献身奉仕することをクリスチャンの特権で知っており楽しく行います。食べるにも、飲むにも、何をするにも、神の栄光のためであり、主を喜ばれる者になることを努め生きていきます。

神が定めたその道は聖書のままと信じて行うことです。あなたは神が定められた道のみ行してをください。